第十三講・ごんぎつね②

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

お昼がすぎると、ごんは、村の墓地（ぼち）へ行って、六じぞうさんのかげにかくれていました。いいお天気で、遠く向こうには、おしろの屋根がわらが光っています。墓地には、ひがんばなが、①赤いきれのように、さき続いていました。と、村の方から、カーン、カーンと、かねが鳴ってきました。そう式の出る合図です。

やがて、白い着物を着たそう列の者たちがやってくるのが、ちらちら見え始めました。話し声も近くなりました。そう列は墓地へ入ってきました。人々が通ったあとには、ひがんばながふみ折られていました。

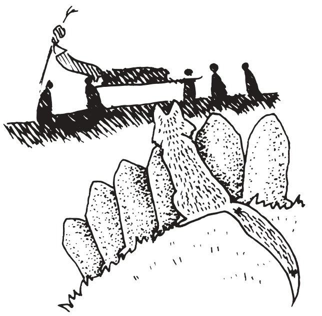
②ごんは、のび上がって見ました。兵十（ひょうじゅう）が、白いかみしもを着けて、いはいをささげています。いつもは、□さつまいもみたいな元気のいい顔が、今日は、何だかしおれていました。

「ははん。死んだのは兵十のおっかあだ。」

ごんは、そう思いながら、頭を引っこめました。

そのばん、ごんは、あなの中で考えました。

「兵十のおっかあは、③とこについていて、うなぎが食べたいと言ったにちがいない。それで、兵十が、はりきりあみを持ち出したんだ。ところが、わしがいたずらをして、うなぎを取ってきてしまった。だから、兵十は、おっかあにうなぎを食べさせることができなかった。そのまま、おっかあは、死んじゃったにちがいない。ああ、うなぎが



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

食べたい、うなぎが食べたいと思いながら、死んだんだろう。④ちょっ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」

〈新美南吉（にいみなんきち）「ごんぎつね」より〉

---

(1)　――線①「赤いきれのように」とありますが、何がどんな様子であることをたとえたものですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(2)　――線②「ごんは、のび上がって見ました」とありますが、その理由としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　そう式の列に自分もくわわりたかったから。

イ　兵十の悲しむ顔がよく見たかったから。

ウ　だれのそう式なのか様子をよく知りたかったから。

エ　またちょっといたずらがしたくなったから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3) □にもっともよくあてはまる色を表す言葉を、文章中からぬき出しましょう。

(4) ――線③「とこについていて」のここでの意味としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 病気になってねていて
イ つかれて早めにねてしまっていて
ウ ぐっすりねむりこんでいて
エ 板の間にすわりこんでいて

(5) ――線④「ちょっ、あんないたずらをしなけりゃよかった」から、ごんのどんな気持ちが分かりますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア もっと気楽にいたずらがしたいという気持ち。
イ うらまれそうでいやだなあと思う気持ち。
ウ 悪いことをしたとこうかいする気持ち。
エ 兵十のおっかあが死んでつまらないと思う気持ち。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。**

兵十が、赤いいどの所で、麦をといでいました。

兵十は今まで、おっかあと二人きりで、まずしいくらしをしていたもので、おっかあが死んでしまっては、もうひとりぼっちでした。

「①おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」

こちらの物置の後ろから見ていたごんは、そう思いました。

ごんは、物置のそばをはなれて、向こうへ行きかけますと、どこかでいわしを売る声がします。

「いわしの安売りだあい。生きのいい、いわしだあい。」

ごんは、その、いせいのいい声のする方へ走っていきました。と、弥助（やすけ）のおかみさんが、うら戸口から、

「いわしをおくれ。」

と言いました。いわし売りは、いわしのかごを積んだ車を道ばたに置いて、ぴかぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助のうちの中へ持って入りました。ごんは、②そのすき間に、かごの中から、五、六ぴきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十のうちのうら口から、うちの中へいわしを投げこんで、あなへ向かってかけもどりました。とちゅうの坂の上でふり返ってみますと、兵十が、まだ、［　　］の所で麦をといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、③いいことをしたと思いました。

〈新美南吉（にいみなんきち）「ごんぎつね」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か」と思ったごんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　おれもひとりだが、みんなそんなもんさ。
イ　おれみたいに、さみしいだろうな。
ウ　これからはもっといじめてやろう。
エ　いっしょに遊ぶなかまがふえてうれしいな。

(2)　――線②「そのすき間」とは、どんな間のことですか。文章中の言葉を使って、三十字以内(いない)で答えましょう。

(3)　□にもっともよくあてはまる言葉を、文章中から二字でぬき出しましょう。

(4)　――線③「いいことをした」とありますが、ごんは自分で何をしたと思っているのですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　兵十にいわしをプレゼントした。
イ　いわし売りからいわしをぬすんで、兵十にあげた。
ウ　いわしが売られて食べられないように、助けてあげた。
エ　いわし売りの手伝いをして、いわしを兵十の家にとどけた。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講・確認(かくにん)テスト

次の中から対義語(たいぎご)を選びなさい。

1 全体
ア 最小　イ 部分
ウ 全部　エ 全身

2 自然
ア 天然　イ 都会
ウ 人工　エ 人口

3 満足
ア 未満　イ 不満
ウ 無満　エ 非満

4 決定
ア 未定　イ 不定
ウ 無定　エ 非定

5 点火
ア 消火　イ 無火
ウ 着火　エ 火花

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講　ごんぎつね②

一題目

(1) (例)赤いひがんばなが一面にさいている様子。
(2) ウ
(3) 赤い
(4) ア
(5) ウ

二題目

(1) イ
(2) (例)いわし売りが、いわしを弥助(やすけ)のうちの中へ持って入っている間。
(3) いど
(4) ア

〈確認テストの解答〉

１　イ　２　ウ　３　イ　４　ア　５　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。